

分野	専門分野	担当者（職種）	山口智世（専任教員）
授業科目	成人看護学概論	実務経験	有 (医療機関に15年以上勤務)
		単位数（時間数）	1単位（15時間）
対象学年・学期	1学年・後期	DPとの関連	DP1～5
授業の目的	社会において主要な役割を担っている成人各期の成長発達の特徴を理解する 成人各期を生きる人の持てる力を生かした看護援助をするために必要な知識を学ぶ		
授業の概要	成人各期における成長発達・身体機能の特徴について学ぶ。さらに成人の学習者、生活者としての側面を理解し、健康障害時の効果的な患者教育を行うための基盤的知識とする。 このように、成人という対象を明らかにし、成人各期の対象に応じた看護を展開するための土台とする。		
授業計画（回・内容・授業形態）	1・2回	1. 対象の理解：大人になること 生涯発達、発達段階・発達課題 2. 各発達段階の特徴 青年期・壮年期・中年期・向老期 3. 対象の生活：働いて生活を営むこと	講義 グループワーク
	3回	4. 成人への看護アプローチの基本 大人の健康行動のとらえ方 行動変容を促進する看護アプローチ	講義
	4回	5. 健康をおびやかす要因と看護 健康バランスに影響を及ぼす要因 ストレスと健康生活	講義
	5回	6. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 健康破綻による危機状態と危機にある人々への支援	講義
	6・7回	7. 慢性病とともに生きる人を支える看護 慢性病とともに生きること 8. セルフケアおよびセルフケアマネジメントへの支援 生活の再構築への支援 自己効力感 教育的アプローチ	講義
	8回	筆記試験	
使用テキスト	専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護総論 医学書院 国民衛生の動向 2020/2021 版 一般財団法人 厚生労働統計協会		
参考図書			
評価方法	筆記テスト ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意	事前学習をして、主体的に授業に臨みましょう。グループワークでは積極的に自分の考えが発言できるようにしましょう。		

分野		専門分野	担当者（職種）	山口智世（専任教員）／谷口優樹（看護師）／林 正徳（救急看護認定看護師）	
授業科目		成人看護援助論Ⅰ（総論）	実務経験	有（医療機関に10年以上勤務）	
			単位数（時間数）	1単位（30時間）	
対象学年・学期		2学年・前期	DPとの関連	DP1～5	
授業の目的	健康状態の経過における特徴、対象のニーズ、看護援助を学ぶ。また、救急及び周手術期にある対象を理解し、看護援助に必要な知識・技術を修得する。				
授業の概要	健康状態の経過における看護について、各期の特徴、患者・家族のニーズ、患者への看護援助を学ぶ。 続いて、周手術期看護について学ぶ。授業スタイルは、グループワークや演習を多く取り入れるので、積極的に参加してもらいたい。授業を通して手術看護について理解でき、イメージすることができるようになることを目指す。手術看護に少しでも興味を持ってもらえる講義を行う。 さらに、講義を通して救急看護を受ける患者・家族の特徴と看護の役割を理解し、グループワークで事例を通して、病態の緊急度・重症度を基軸に限られた情報から判断し、急激な状態変化に即応した看護援助を学ぶ。				
授業計画（回・内容・授業形態）	1回（1時間）	健康の維持・増進を目指す時期の看護		【講義】	山口
	2回	急性期における看護		【講義】	山口
	3回	回復期における看護		【講義】	山口
	4回	慢性期における看護		【講義】	山口
	5回	終末期における看護		【講義】	山口
	6回	周術期看護① 手術看護師について知ろう ～手術室ってどんなところ？オペ看って何する人？～		【講義・GW】	谷口
	7回	周術期看護② 手術で使用する道具とは （手術看護の花形、器械出しについて）		【講義・GW】	谷口
	8回	周術期看護③ 麻酔法 （手術中の麻酔について）		【講義】	谷口
	9回	周術期看護④ 講義・演習 （気管挿管介助・ガウンテクニック）		【講義・演習】	谷口
	10回	周術期看護⑤ 手術看護とは （手術室に「看護」はあるのか？）		【講義】	谷口
	11回	救急看護と概念、救急看護の対象の理解、救急看護体制と看護の展開		【講義】	林
	12回	救急患者の観察とアセスメント BLS, ALS の根拠		【講義】	林
	13回	主要病態に対する救急処置と看護 意識障害、呼吸障害、ショック・循環障害、急性腹症、 体液・代謝異常		【講義】	林
	14回	外傷、熱傷、中毒、救急時の看護技術（止血法の実施）		【講義・演習】	林
	15回	医療機器の原理と実際 医療機器を安全に使うために 人工呼吸器の原理と実際		【講義・演習】	林
	16回（1時間）	筆記試験			山口
使用テキスト		系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学〔4〕医学書院（共通） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院（1～5回） 看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア（1～5回） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院（6～10回） 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院（11～15回）			

参考図書	
評価方法	筆記試験 100%（健康状態の経過における看護 30%、周手術期看護 35%、救急看護 35%） ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。
履修上の注意	事前学習をして、主体的に授業に臨みましょう。技術演習では積極的に参加できるようにしましょう。

分野	専門分野	担当者（職種）	井上晃介（看護師）／小玉英子（看護師）／井上 舞（看護師）／山口智世（専任教員）	
授業科目	成人看護援助論Ⅱ（急性期）	実務経験	有（いずれも医療機関に10年以上勤務）	
		単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	
対象学年・学期	2 学年・前期	DP との関連	DP1～5	
授業の目的	急激な健康状態の変化により生命危機状態にある成人期の対象を理解し、看護援助に必要な知識・技術を修得する。			
授業の概要	急性期にある患者の看護を消化器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患に焦点を当て、検査、手術を中心とした治療・処置を受ける患者の看護、疾患をもつ患者の看護について講義を通して学ぶ。また、看護援助に必要な、重要な技術については演習を行い、体験から学ぶ。			
授業計画（回・内容・授業形態）	1 回	呼吸器疾患をもつ患者の看護 看護を学ぶにあたって（急性期） フィジカルアセスメント 呼吸器症状に対する看護	【講義】	井上舞
	2 回	検査を受ける患者の看護 治療・処置を受ける患者の看護（吸入療法＜器具＞・胸腔ドレナージ、酸素療法＜NPPV＞、人工呼吸器）	【講義・一部動画視聴】	
	3 回	疾患を持つ患者の看護① ・肺炎患者の看護 ・結核患者の看護 ・睡眠時無呼吸症候群のある患者の看護	【講義】	
	4 回	疾患を持つ患者の看護② ・肺癌患者の看護 ・COPD のある患者の看護 ・気管支喘息のある患者の看護	【講義】	
	5 回	フィジカルアセスメント実技＜聴診器用意＞ 体位ドレナージ、肺理学療法（呼吸ケア） ※体位ドレナージの目的について学習してくる※	【講義】 【演習】	
	6 回	循環器疾患をもつ患者の看護 症状に対する看護：患者の特徴、看護の役割、胸痛、動悸、浮腫、呼吸困難、チアノーゼ、めまい・失神、不整脈、動脈硬化	【講義】	小玉
	7 回	検査を受ける患者の看護：心電図、心エコー法、心臓カテーテル法、中心静脈圧		
	8 回	治療・処置を受ける患者の看護：薬物療法、経皮冠状動脈インターベーション（PCI）、ペースメーカー、冠状動脈バイパス術、弁置換術・弁形成術、大血管再建術、補助循環装置、心臓リハビリテーション		
	9 回	疾患をもつ患者の看護：虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症、心筋症、動脈系疾患（動脈瘤・動脈閉塞性疾患・静脈閉塞性疾患）		
	10 回	技術演習：医療機器（心電図モニター）の操作・管理	【演習】	
	11 回	消化器疾患をもつ患者の看護 検査を受ける患者の看護、治療を受ける患者の看護（栄養・食事療法、内視鏡手術・開腹手術を受ける患者の看護）	【講義】	井上晃

	12 回	胃がん患者の看護 肝臓・胆道の手術を受ける患者の看護		
	13 回	大腸がん患者の看護（ストーマ造設術を受ける患者の看護）		
	14 回	ストーマ管理のグループワーク・演習		
	15 回	まとめ・筆記試験	【講義】	山口
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院（11～14 回） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院（6～9 回） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院（1～5 回） 系統看護学講座 臨床外科看護各論 医学書院（共通）			
参考図書				
評価方法	筆記試験 100%（消化器看護 30%・循環器看護 35%・呼吸器看護 35%） ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。			
履修上の注意	解剖生理学病態学の復習をして臨んでください。また、事前学習をして、主体的に授業に臨みましょう。技術演習では積極的に参加できるようにしましょう。			

分野		専門分野	担当者（職種）	福島妙子（看護師）／小西浩平（看護師） ／中元祐希（看護師）／吉本浩紀（看護師） ／山口智世（専任教員）	
授業科目		成人看護援助論 Ⅲ（回復期）	実務経験	有（いずれも医療機関に5年以上勤務）	
			単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	
対象学年・学期		2 学年・後期	DP との関連	DP1～5	
授業の目的	急性期を脱し機能の回復や生活の再構築、社会復帰に向けてリハビリテーションを必要とする成人期の対象を理解し、看護援助に必要な知識・技術を修得する。				
授業の概要	回復期にある患者の看護を脳・神経疾患、運動器疾患、腎・泌尿器疾患、眼・耳鼻咽喉疾患に焦点を当て、症状、検査、治療・処置を受ける患者の看護、疾患をもつ患者の看護について講義を通して学ぶ。また、看護援助に必要な、重要な技術については演習を行い、体験から学ぶ。				
授業計画（回・内容・授業形態）	1 回	脳・神経疾患をもつ患者の看護 脳の働き、JCS・MMT について ・意識障害のある患者の看護 ・言語障害のある患者の看護		【講義】	福島
	2 回	症状別患者の看護 ・運動麻痺のある患者の看護 ・けいれんをおこす患者の看護 ・頭蓋内圧亢進症状のある患者の看護 ・嚥下障害のある患者の看護 ・呼吸障害のある患者の看護			
	3 回	・認知症患者の看護 ・褥瘡予防と看護 ・脳血管障害患者の看護			
	4 回	・クモ膜下出血患者の看護 ・開頭術を受ける患者の看護 ・下垂体腺腫摘出術患者の看護			
	5 回	運動器疾患をもつ患者の看護の役割 ・看護の目的と機能・援助のための知識と技術 ・良肢位の保持、関節可動域 ・神経麻痺と症状		【講義】	小西
	6 回	症状に対する看護 ・二次的変形や神経麻痺とその他の合併症予防について 検査・診断を受ける患者の看護 ・関節穿刺、脊髄髄腔造影、MRI、CT などの介助 保存的療法を受ける患者の看護 ・牽引、ギプス、副子固定を受ける患者の看護			
	7 回	疾患別看護と外科的治療を受ける患者の看護 ・大腿骨近位部骨折の患者の看護 ・股関節の手術を受ける患者の看護 ・膝関節の手術を受ける患者の看護 ・四肢切断、骨腫瘍			
	8 回	脊椎の手術を受ける患者の看護 ・頸椎、腰椎の術前、術後の看護 脊髄を損傷した患者の看護 ・急性期、回復期、慢性期～退院の各期における看護の要点			
	9 回	腎・泌尿器科患者の看護の特殊性 症状に対する看護、検査を受ける患者の看護		【講義】	中元
	10 回	内科的治療を受ける患者の看護 透析療法を受ける患者の看護 膀胱留置カテーテルの管理		【講義】 【演習】	

	11 回	泌尿器科の手術を受ける看護、急性腎不全、慢性腎不全患者の看護	【講義】	
	12 回	腎移植を受ける患者の看護	【グループワーク】	
	13 回	眼・耳鼻咽喉疾患をもつ患者の看護 眼疾患をもつ患者の看護 症状に対する看護、診察時の看護、検査、治療・処置、手術を受ける患者の看護 白内障の患者の看護、緑内障の患者の看護、網膜剥離の看護	【講義】	吉本
	14 回	眼・耳鼻咽喉疾患をもつ患者の看護 耳鼻咽喉疾患をもつ患者の看護 症状に対する看護、検査、治療を受ける患者の看護 難聴のある患者の看護、慢性中耳炎患者の看護、メニエール病患者の看護、喉頭がん患者の看護	【講義】	吉本
	15 回	まとめ・筆記試験	【講義】	山口
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院（1～4 回） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔10〕運動器 医学書院（5～8 回） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院（9～12 回） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔13〕眼 医学書院（13 回） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 医学書院（14 回）			
参考図書				
評価方法	筆記試験 100%（脳神経看護 30%、運動器看護 30%、腎・泌尿器看護 30%、眼耳鼻咽喉看護 10%） ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。			
履修上の注意	解剖生理学病態学の復習をして臨んでください。また、事前学習をして、主体的に授業に臨みましょう。技術演習では積極的に参加できるようにしましょう。			

分野		専門分野	担当者（職種）	細川寿美（看護師）／丸穂泰己（看護師） ／宇都宮保志（看護師）／竹内幸美（看護師） ／井上幸子（看護師）／山口智世（専任教員）	
授業科目		成人看護援助論Ⅳ （慢性期・終末期）	実務経験	有（いずれも医療機関に 10 年以上勤務）	
			単位数（時間数）	1 単位（30 時間）	
対象学年・学期		2 学年・後期	DP との関連	DP1～5	
授業の目的	疾患や機能障害をかかえながら生活を営んでいくことが必要な成人期の対象を理解し、看護援助に必要な知識・技術を修得する。また、最期までその人らしく生きてゆくことを支援する看護援助に必要な知識・技術を修得する。				
授業の概要	慢性期にある患者の看護を内分泌・代謝疾患、膠原病、感染症、血液・造血器疾患に焦点を当て、症状、治療・処置を受ける患者の看護、疾患をもつ患者の看護について講義を通して学ぶ。また、看護援助に必要な、重要な技術については演習を行い、体験から学ぶ。 引き続き、がん薬物療法や緩和ケアを必要とする患者の看護について講義を通して学ぶ。				
授業計画（回・内容・授業形態）	1 回	内分泌疾患患者の看護（1） 患者の特徴と看護の役割／下垂体疾患 甲状腺疾患 ／副甲状腺疾患／副腎疾患		【講義】	細川
	2 回	代謝疾患患者の看護（1） ①糖尿病患者の看護 患者の特徴、検査、急性期・慢性期合併症		【講義】	
	3 回	②糖尿病患者の看護 教育入院、生活指導、インスリン注射について 【演習】簡易血糖測定		【講義・演習】	
	4 回	代謝疾患患者の看護 脂質異常症／肥満／るい痩／尿酸代謝異常		【講義】	
	5 回	膠原病をもつ患者の看護 関節リウマチ患者の看護、全身性エリテマトーデス患者の看護		【講義】	丸穂
	6 回	感染症をもつ患者の看護 感染予防 HIV 感染症・エイズ患者の看護、日和見感染に対する看護		【講義】	宇都宮 感 染 管 理 認 定 看護師
	7 回	血液・造血器疾患をもつ患者の看護 医療の動向、患者の特徴と看護の役割 疾患をもつ患者の経過と看護 病気と付き合いながら生活する患者の看護、治癒が期待できなくなったとき		【講義】	丸穂
	8 回	主要症状を有する患者の看護、検査を受ける患者の看護、 放射線療法と看護			
	9 回	造血器腫瘍患者の意思決定支援、造血幹細胞移植を受ける患者の看護			
	10 回	白血病患者の看護			
	11 回	輸血療法、輸血の管理		【講義・演習】	竹内 が ん 化 学 療 法 看 護 認 定 看 護 師
	12 回	がん薬物療法と看護 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施		【講義】	

	13回	緩和ケアと看護 全人的ケアの実践 緩和ケアチームにおけるチームアプローチ (GW)	【講義】	井上 緩和ケ ア認定 看護師
	14回	意思決定支援 (GW) 臨死期のケア 家族のケア		
	15回	まとめ・筆記試験	【講義】	山口
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院 (1～4 回) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 (5～6 回) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院 (7～11 回) 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 (12 回) 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 (13～14 回)			
参考図書				
評価方法	筆記試験 100% (内分泌・代謝看護 30%、膠原病看護 10%、感染症看護 10%、血液・造血器看護 40%そのうちがん薬物療法と看護 10%、緩和ケア 10%) ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。			
履修上の注意	解剖生理学病態学の復習をして臨んでください。また、事前学習をして、主体的に授業に臨みましょう。技術演習では積極的に参加できるようにしましょう。			

分野	専門分野	担当者（職種）	山口智世（専任教員）
授業科目	成人看護援助論演習	実務経験	有 (医療機関に15年以上勤務)
		単位数（時間数）	1単位（30時間）
対象学年・学期	2学年・後期	DPとの関連	DP1～5
授業の目的	成人期の対象の健康段階・健康障害をアセスメントし、対象の健康問題の解決のための能力・判断力を身につける。 既習の知識・技術・態度を統合し、対象の状況に応じた看護が実践できる。自己の看護実践能力を振り返り、課題を明確にすることができる。		
授業の概要	周術期にある成人の看護の視点と特徴を理解する。胃がん患者の事例を中心に、術前の全身評価の視点を理解する。また、手術侵襲や全身麻酔の影響から予測される術後合併症のリスクを予測し、早期発見のための観察、予防的介入、臓器切除による機能低下をふまえ、回復過程に沿った術後に必要な看護を学ぶ。 グループ学習を中心に行う。「全身麻酔で手術を受けた患者」「呼吸器疾患」の2つの事例をもとに対象に応じた援助を実施する。		
授業計画（回・内容・授業形態）	1～5回：手術を受ける患者の看護 胃がん患者の事例（クリティカルパスに沿った看護の提供） 1. 手術療法(侵襲的治療)を受ける患者の看護 1) 周術期のアセスメントに必要な視点 2) 周術期の患者と家族のアセスメント ①術前の全身評価 ②手術侵襲や全身麻酔の影響 3) 起こりやすい問題・症状と看護 ①身体侵襲や全身麻酔の影響からの術後合併症 術後合併症の予防（呼吸器・循環器合併症） 苦痛の緩和（創部痛の緩和、治療の伴う行動制限） ②臓器切除による機能低下と術後看護問題 手術部位の機能障害の看護（胃切除に伴う機能低下） 4) 回復に向けた具体的な援助 ①術後合併症の早期発見のための観察 ②術後合併症予防のための援助(早期離床の援助) ③術後機能障害への看護（胃切除に伴う機能低下） 6～8：回④退院指導【技術】食事指導(パンフレット作成) 9～12回：全身麻酔で手術を受けた患者への援助(術直後の患者の全体像把握) 【技術】・ドレーン類の挿入部の処置 ※講義含む ・点滴静脈内注射の管理 ・点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換 13～15回：慢性疾患を持つ患者の援助（呼吸器疾患を持つ患者に必要な看護【事例②】（COPD）口腔内・鼻腔内吸引 ・気管内吸引(技術は各論前演習で実施)		
使用テキスト			
参考図書	系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学〔4〕医学書院（共通） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院（5回） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・看護臨床技術（医学書院）		
評価方法	グループワーク・発表 50%、レポート 25%、演習 25%の総合評価 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意	グループワーク中心の授業です。積極的に発言し、主体的に取り組みましょう。		